

【おたずね】針葉樹の天然乾燥を行っています。例年カビの発生に悩まされています。薬品を使わないでカビを防ぐ方法はないでしょうか。  
〔M町, H生〕

【おこたえ】はやく材の表面の含水率を下げることです。要するに適確な天然乾燥をすることです。そのためにつぎの点の注意が必要です。

①製材後はのこくずをよく払い落とし、ベタづみのまま放置しておかないで、すぐに棧積みすること。

②風通しと排水のよい場所を選び、雑草やゴミを除くこと。

③基礎は地上45cmほどの高さにすること。

④風向きは主風が棧木と平行に通り返ける方向を選んで選ぶこと。

⑤棧木の寸法は2.5~3.0cm角を使うこと。棧木の間隔は板が厚くなるほど広げ、2cm前後の厚さで45cm、3cm前後で60cm、6cmぐらいで75cmを目安にする。板の間隔も3~6cmと十分開けること。

⑥棧積み高さは3~3.6m程度、幅は1.8~2.4m程度とし、必ず屋根をかけること。

◆ほかに次のおたずねがありました。

・皮つき丸太を製材していますが、なるべく経費をかけずに付着した石を取り除く方法はありませんか。〔調査科〕

・水路工事にカラマツ材を使いたいのですが、強度、耐久性など教えてください。〔合縁の調査〕

・農地排水のために使われている暗きよ土管の周りに、排水効率を良くする目的でチップ状の木片を使いたいのですが、問題点などあったらうかがいたい。〔技術科〕

・レッドラワンとジュルトンの強度性能を教えてください。また、これらの樹種を内装材として使う際の留意点などうかがいたい。〔材質科〕

・レッドラワンを小物や枠物材に使用する際に樹脂道がトラブルを引き起こすことはありません

か。〔材質科, 技術科〕

・円柱材で「あずま屋」を製作しようと考えています。加工方法などうかがいたい。

・材鑑にするため何樹種かの立木を伐採しました。この後の処理法、加工法を教えてください。

・ストローブマツの用途、加工性などうかがいたい。

・シナノキで鉛筆材を製造していますが、フライス盤で六角形に切削するときに毛羽立ちが発生し困っています。対策を教えてください。

・アスペン材をギャングリッパーで切削すると毛羽立ちが発生しやすいのですが、防止策などうかがいたい。〔加工科〕

・アイススティックの製造工程で、シナノキ原木を30~40cmに玉切りし煮沸していますが、最近煮沸した材の両木口に淡褐色の変色が生じます。原因と対策を教えてください。

〔加工科, 木材保存科〕

・乾燥室内の湿度調節を行う方法をうかがいたい。

・春から秋にかけて、製材後野積しておく製品に割れが発生し困っています。これを防止する方法はありませんか。

・シナ材を生材から直接人工乾燥する様になってから、材に変色が生じ困っています。防止対策をうかがいたい。

・低温除湿乾燥装置でカツラ材の乾燥を行ったところステッカーマークが入りました。原因と対策を教えてください。

・スギ丸太の乾燥法をうかがいたい。

・ミズナラ、ブナ、カバ、シナなどの厚物材を乾燥したいのですが、乾燥スケジュールや注意すべき点などおたずねしたい。

・40mm厚のシナのランバコア材を乾燥していますが、材の中央部の含水率が高く困っています。対策をうかがいたい。〔乾燥科〕

・ウォルナットの辺材を着色し心材色にする方法を教えてください。〔接着科〕

・帯ノコの加工でガス溶接を行っています。溶接部と熱影響部の界面の強度を向上させる方法はないでしょうか。〔製材試験科〕

・PT型ハウス用トラス及びラチス梁を住宅用に使用したいのですがいかがでしょうか。

〔複合材試験科〕

・ハンマータイプの粉碎機では粉碎動力と動力費が、原料の大きさと粉碎物の大きさによってどのように異なりますか。〔繊維板試験科〕

・簡単に出来る木炭の製造方法を教えてください。

・木くずボイラーのススを成型して販売しようと考えていますが、でん粉、小麦粉に代わる安い粘結剤はありませんか。

・スギ根曲がり材の利用法をうかがいたい。

・ボード原料のチップに石などが混入しておりトラブルが発生します。チップと異物を分離する方法を教えてください。〔林産機械科〕

・屋外公共施設の木製品（ベンチ、テーブル、遊具など）の耐候性を向上させるためにWPC化を考えていますがいかがでしょうか。

〔木材化学科〕

・積雪2m地域でのPT型ハウスの設計についておたずねしたい。

・合板の難燃化処理の方法を教えてください。

・51年に新築した住宅にナミダタケの被害が発生しました。対策をうかがいたい。

・住宅の柱から穴をあけて虫が脱出てきました。虫の種類と駆除法など教えてください。

・カラマツ小径丸太の地中での耐用年数は何年ぐらいと考えればよいでしょうか。

・製材品の防カビ処理法について、その詳細をうかがいたい。〔木材保存科〕



技術相談をされるとき、相談内容について担当科がお分かりにならないときは、窓口の技術科へ申し出て下さい（電話0166-51-1171・内線60）。



## 考古学 百年 (4)

日本の考古学が始まって百年にあたる昭和五十三年に考古学(1)の題名で書いてから今回で四回目になる。本誌のこの欄は仕事に関係のない内容でよからうと考えたこと、筆者が定年に近ずいて過去を回想したくなったこと、北海道産業考古学会の発足などが、この題名で執筆した動機である。

ところで、最近の新聞によると道内の各市町村で郷土博物館や記念館といったものの建設がブームであるとの報道があった。本道も開基八十年、百年を迎える土地がふえ、二代目の世代が遠からず第一線を引退しようとしているとき、その足跡を残したいとする意向や、地方の時代とも相まって、その土地の特色を印象づけたいと考える考え方によるのではなからうか。

本文は、私共の生活や仕事に関連のある《事始め》を列記して、そこから読者が何を考えるかの材料としたいという意図によっており、今回は、富士銀行が昭和五十五年、創業百年にあたり、《百円の百年》なる小冊子をまとめているが、そのなかから貨幣価値の移り変わりを列記す

ることとした。

大黒さま百円札が登場したのが明治十八年、陸蒸気・馬車鉄道のおかげで土地の値段は上がって、日本橋から銀座にかけての地価は坪三十〜五十円、明治二十一年に日本初の本格的なコピー専門店が上野に現れ、その名が可否茶館であったとのことである。

日本の近代が開いた大正初期に文化住宅・文化生活という言葉が流行、こんな大正人には月収百円は理想のおムコ像で、恵まれたスイートホームづくりができた。昭和に入っても百円もあればお手伝いさんを置いて楽に暮せたと、課長の月給が百円以下、部長四百円、社長・大臣八百円で、当時一万円も持っていれば資産家であった。

戦後、昭和二十一年には、清酒一升が十九円、コーヒ一杯が五〜十円、二十八年のタクシール料金が四キロメートルまで百円、昭和三十三年には清酒二級が二合で百円、昭和四十四年にはセブンスター一箱、コーヒ一杯が百円、翌年には東京のそばのもり、かけが百円になったとのことである。

(小野寺)